

令和3年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 丸山 一男 三重大学大学院医学系研究科麻酔集中治療学 教授

研究要旨

令和元年10月より、三重大学医学部附属病院に痛みセンターという枠組みが発足。翌年10月に集学的痛みセンター(B)に登録されました。集学的診療における多職種連携と地域における診療ネットワークの構築を行いつつ、三重県慢性疼痛診療研修会で卒後研修の場を提供しています。また、三重大学と鈴鹿医療科学大学では、平成28年度から令和2年度に、合同で「地域総活躍社会のための慢性疼痛医療者育成事業：課題解決型高度医療者人材養成プログラム」を実施しました、これをきっかけに、2大学共同で、慢性疼痛に関する卒前教育を提供し続けています（学部教育早期の多職種の専攻学生が対象です）。集学的診療の推進、診療ネットワークの構築、卒前卒後の教育の充実に関し、工夫の余地を探索し、対応策を立案し検証します。

A. 研究目的

- 1). 新型コロナを背景に、WEBでの研修会が普及した。価値を高める工夫を探索する。
- 2). 研修会の広報に関し、三重県理学療法士会と三重県鍼灸師会へ後援を依頼し、三重県慢性疼痛診療研修会のチラシをホームページに掲載いただき、その効果を検証する。
- 3). 痛みセンターのセンター員で、有益な資格の取得を試み、意義を考察する。

B. 研究方法

- 1). 4回の研修会を計画し、経験を蓄積する。参加者の声をアンケート方式で集積する。
- 2). 県の、理学療法士会と鍼灸師会に三重県慢性疼痛診療研修会の広報について、後援を依頼。ホームページへのチラシ掲載の効果を、参加者へのアンケートで検証する。
- 3). 公認心理師試験のための現任者講習会を修了し得た医師2名（常勤1名、非常勤1名）にて、第4回公認心理士試験を受験する。受験過程での学習や努力が、慢性疼痛診療において、どのような意味を持つか、主観的に考察する。

(倫理面への配慮)

- 1), 2)では、アンケートの目的を開示し、

記載内容の使用については、同意を得られたもののみを使用する。3)は、主観的観察のみであり、倫理面の問題は起こらない。

C. 研究結果

- 1). 三重県慢性疼痛診療研修会については、多職種での事例検討について、多様な意見（時間配分や症例の難易度等につき）がでる傾向である。一方、講師による講演は、概ね好評であった。診療研修会とは別に、今年度もWEBでのファシリテーション技術について、研修会を行った（2021年7月）。技術的な知識の獲得以外に、研修会を「受ける立場」での気付きを評価する意見が出た。参加者のWEB研修会に対する経験値や対応力には、ばらつきが目立つ。
- 2). 2022年3月19日の診療研修会は、その広報につき、三重県理学療法士会と三重県鍼灸師会の後援を得た。地域の他の分野の研修会や特定医療機関の特定部署のシステム入れ替え等と日程が重なり、他医療機関からの参加申し込みは20人未満と少なかった。そのうち、理学療法士の参加は4人で、鍼灸師の参加は無かった。三重県理学療法士会からの情報で、申し込んだ参加者（理学療法士）は3名であった。

- 3). 医師2名は、いずれも、第4回公認心理師試験に合格したが、受験の過程での研修や独自の学習により、直ちに、認知行動療法が行えるようになったり、あるいは、臨床心理士が行うような患者へのカウンセリングが行えるようになったりするわけではないことを、明確に実感した。

D. 考察

- 1). WEBでの研修会は、機材やアプリの発展、研修会提供側の技能の向上、及び、参加者の経験値の蓄積で、より価値の高いものになっていく可能性を秘めている。新型コロナの状況が終息した場合も、WEBでの研修会の価値は、続いていくと考える。
- 2). 県の理学療法士会や鍼灸師会のホームページにチラシを掲載いただき、研修会の広報を後援いただいた。しかし、今回は、掲載期間が1か月程と短く、そのために十分な効果が得られなかった可能性がある。また、諸般の事情により参加申し込み数も少なく、十分な検討が出来なかった。
- 3). 医師等が、現任者講習会を経て国家試験に合格し公認心理師資格を獲得しても、臨床心理士の代わりは務まらなると実感している。痛みセンターでの臨床心理士の、安定・継続的な確保が必要である。

E. 結論

痛みセンター設立を介した慢性疼痛診療の質の向上には、まだまだ工夫の余地がある。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 丸山一男, 向井雄高: 痛みの治療原則～痛みの感覚体験と感情体験を神経回路と脳から考える～. Tehamo 1(2) 30-37, 2021.
- 2) 丸山一男, 横地歩, 坂本正: 減圧手術ではよくならない Failed back surgery syndrome に対する治療 Pain clinic の

立場から(内服治療も含めて): 脊椎脊髄. 34(8), 507-514.

- 3) Ushida K, Akeda K, Momosaki R, Yokochi
- 4) A, Maruyama K, et al: Intermittent pain in patients with chronic low back pain in associated with abnormalities in muscles and fascia. Int J Rehabil Res. 45(1), 33-38, 2022.

2. 学会発表

- 1) 横地歩, 牛田健太, 丸山一男, 三上勇氣, 他: 特発性骨頭壊死症に伴う慢性疼痛患者への「行動分析に基づく心理教育」の効果に関する一考察 -多職種連携: 長期大量モルヒネの減量・中止- (ケーススタディー: 90分). 日本認知・行動療法学会発表論文集 47:104-105, 2021.
- 2) 牛田健太, 丸山一男, 他: 慢性腰背部痛と運動恐怖を抱えながらも、自宅で運動療法を継続できた1例. 日本ペインクリニック学会誌 28(6):135-136, 2021.
- 3) 牛田健太, 坂本正, 横地歩, 丸山一男, 他: 当院ペインクリニック外来理学療法受診動向の調査. PAIN REHABILITATION. 11(2):125-125. 2021.
- 4) 大川真駒, 牛田健太, 坂本正, 横地歩, 丸山一男: 硬膜外ブロックをきっかけとした運動の推奨により疼痛が軽快した腰椎変性すべり症に伴う坐骨神経痛の一例: 日本ペインクリニック学会 第2回東海・北陸支部学術集会. 2022-02-26. (WEB開催).
- 5) 尾本朋美, 牛田健太, 横地歩, 丸山一男, 他: 「地域総活躍社会のための慢性疼痛医療者育成事業」オンライン開催について -参加者アンケートの結果から-: 日本ペインクリニック学会 第2回東海・北陸支部学術集会 2022-02-26 (WEB開催).

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録

なし
3. その他
なし

研究協力者

横地 歩 三重大学医学部附属病院
痛みセンター 副センター長
牛田 健太 三重大学医学部附属病院
痛みセンター センター員